

## 滋賀県立大学 学生団体“滋賀県大 BASSER'S”の取り組み

### 曾我部共生（滋賀県立大学）

“滋賀県大 BASSER'S”は、バス釣りや魚捕りをしている学生達が集い、自分たちが普段親しんでいる生き物たちを取り巻く環境問題、特に外来種問題について考え、行動していこうと2010年秋に結成された学生団体である。

滋賀県大 BASSER'S の主な取り組みは、

1. 琵琶湖の内湖である神上沼や大学内の調整池における外来魚の駆除活動
  2. 神上沼に生息している水生生物の季節変化の調査
  3. 大学生や地域住民に身近な水辺に関心をもってもらうための普及啓発活動
- である。

また、滋賀県自然保全課や彦根市、地域の自治体と連携して駆除釣り大会の補助や外来植物ナガエツルノゲイトウの駆除活動も行なっている。今回は約1年間活動してきて得られた調査結果・記録を報告する。

滋賀県大 BASSER'S では水域保全の一環として外来魚の駆除活動をしている。神上沼においては毎月1~2回ほど刺し網、投網、釣り、遮光カゴによってオオクチバスやブルーギルの駆除活動をしている。6月と10月には神上沼の周辺自治体や滋賀県立大学の学生を対象とした外来魚駆除釣り大会を開催した。

また、4~5月にかけては学内の調整池において人工産卵床を設置し、調整池に生息しているオオクチバスの駆除を試みた。調整池の底質はヘドロ及び泥であったので、伊豆沼式人工産卵床を4基設置した。その結果、設置した2基に産卵を確認し、卵の除去に成功した。

滋賀県大 BASSER'S では神上沼における在来魚類の調査も行なっている。在来魚類の調査は「お魚キラー」を用いた定量調査及び投網を用いた定性調査を毎月実施している。これにより、神上沼における在来魚類の季節変化を調べた。右図は4月から12月までの神上沼における月ごとの在来魚類相の変化を示している。神上沼における定点観察調査を通して、内湖である神上沼と琵琶湖本湖とを行き来する在来魚類の移動傾向が分かってきた。しかし、1~3月の間のデータが得られていないため、今後の調査で通年の変化を明らかにしていきたい。

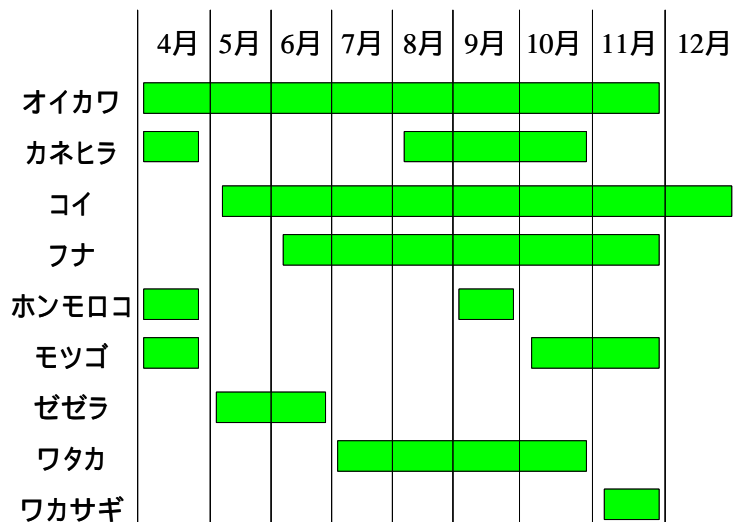


図. 3 個体以上採捕された在来魚類相変化

また、神上沼において外来魚の駆除を行なうことで外来魚による在来魚類への捕食圧が低下する。この捕食圧の低下が神上沼の在来魚類にどういった影響を与えるのかについても今後調べていきたい。